

2019年8月23日

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム(DAAS) 第13期総会

竺覚暁理事長 挨拶

理事長を務めております竺でございます。

皆様、お忙しいところを DAAS 第十三期総会にご参集戴きまして誠に有難うございます。さて、私事になりますが、実は私、昨年、病を得まして現在も療養中でございます。ですので徐々に DAAS の理事長職を務めて参るのが困難になった参りました。それでこの度、辞任させて戴くことをお願い申し上げた訳です。

私の DAAS における活動は、DAAS 設立当時に、日本建築学会から DAAS の運営委員として派遣されたところから 始まりました。それから 13 年のあいだ、DAAS だけでなく、鈴木博之先生の後を承けて 国立近現代建築資料館の運営に携わり、また日本建築家協会と私の勤務校が共同で設立した JIA-KIT 建築アーカイブス、その運営機関である NPO 建築文化継承機構等々、我が国の建築アーカイブスの黎明期の活動に 関わって参った訳です。

DAAS は 2006 年に創設されたのですが、2011 年の UIA 大会に際しまして収載資料の拡充を目指して、一万点を擁するアーカイブスに成長いたしましたし、また毎年、失われて行く名建築の VR による記録保存や、重要な建築家・アーキテクトの映像オーラル・アーカイブスも作成して収載しております。我が国の貴重な建築作品、その設計図書、優れた街並みなどの記録資料のデジタル画像データによる保存とアクセスということは、我が国建築文化の次世代への継承、また国際的な伝達を行うという非常に重要な活動だということは、漸くにして認知されて来ていると存じます。我が国の建築作品や街並みは国際的な評価も高く、また日本を訪れる方々も年々相当数にのぼりますので、DAAS のような一般に無償で公開している建築デジタル・コンテンツ・サービスは大変意義のあるものだと考えております。

一方で いずれの建築アーカイブスにおいても、費用面、運営面、人材不足等、課題は多く様々な方法を模索しながらの厳しい状態で活動を続けていると存じております。DAAS に致しましても例外ではなく、収載資料を次世代に確実に伝えて行くためには DAAS の安定的な経営が必要と考え、2014 年より、運営基盤安定化ワーキングを立ち上げ、現在も収入の安定化や関係各機関とのアライアンス、協業などを検討して参りましたが、我が国における唯一の建築文化デジタル・アーカイブスとして DAAS が保有するコンテンツだけでなく、他の機関の活動をデジタルで繋ぎ、日本の建築文化を伝達するデジタル・ネットワーク・アーカイブを目指し、模索をしているということですので、これまでご支援を頂きました皆様方におかれましては、引き続きのご協力を賜りたいと存じております。

どうぞよろしく願いいたします。

以上、挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。